



平成22年 2 月 4 日

各 位

会社名 株式会社テクノマセマティカル
代表者名 代表取締役社長 田中 正文
(コード番号 3787 東証マザーズ)
問合せ先 取締役副社長 出口 眞規子
(TEL. 03-5798-3636)

業績予想の修正に関するお知らせ

最近の業績の動向等を踏まえ、平成21年5月14日に公表いたしました平成22年3月期通期（平成21年4月1日～平成22年3月31日）の業績予想を下記の通り修正することといたしましたので、お知らせいたします。

記

1. 業績予想数値の修正

平成22年3月期通期（平成21年4月1日～平成22年3月31日）

(単位：百万円、円)

	売上高	営業利益	経常利益	当期純利益	1株当たり 当期純利益
前回発表予想 (A)	810	△244	△226	△230	△9,264.48
今回修正予想 (B)	537	△442	△433	△436	△17,387.14
増減高 (B－A)	△273	△198	△207	△206	－
増減率 (%)	△33.7%	－	－	－	－
(ご参考) 前期実績 (平成21年3月期)	552	△276	△261	△511	△20,695.62

2. 業績予想数値の修正理由

第2四半期まで比較的計画通り進捗しておりましたが、第3四半期に入り、下期に重点を置いた計画に未達の状況となっております。

下期の重点見込み案件には、ハードウェアIP、ソフトウェアIPのライセンス事業に係るもののほか、昨年2月に事業統合しました神戸テクノロジーセンターで、その強みとしていた半導体設計関連の受託案件獲得を見込んでおりましたが、半導体市況の回復傾向にもかかわらず、案件獲得が見込めない状況となっております。これは、市況の回復レベルが外部へ設計委託をするほどの水準ではないことなどが要因と考えております。神戸テクノロジーセンターは受託業務から独自開発業務へと転換を進めておりますが、その実現およびシナジー効果の発現にはあとしばらくの期間を要するものと見込まれます。

当社といたしましては、引き続き営業努力を傾注しライセンス・ビジネスを中心とした案件獲得に邁進する所存であります。当第3四半期までの実績と現時点での第4四半期の案件獲得見込みを慎

重に精査しました結果、売上計画の未達とそれによる各利益段階への影響は大きく、平成 21 年 5 月 14 日に公表いたしました通期業績見通しの達成は困難と判断し、誠に残念ではありますが、上記のとおり修正いたします。

(注) 上記の見通しは、本資料作成日現在において入手可能な情報に基づき作成したものであり、不確実な要素を含んでおります。実際の業績等は、今後様々な要因によって記載内容と異なる可能性がありますので、当公表の内容に全面的に依拠して投資等の判断を行うことは差し控えていただきますようお願い申し上げます。

以 上